



訪問診療・往診専門

医療  
法人

# かさまつ在宅クリニック

かさまつ  
通信

No. 13

(平成 29 年 4 月)



## 徳島県地域医療構想について

徳島県地域医療構想についての新聞記事をご覧になった方も多いことと思います。団塊の世代の方々が 75 歳以上となる 2025 年（平成 37 年）を見据え、限られた医療資源を有効に活用しつつ、効率的かつ質の高い医療提供体制を構築することが求められています。地域医療構想は、各都道府県が地域の実情にあわせて策定されていますが、徳島県地域医療構想では、将来あるべき医療提供体制を実現するための施策として以下の 3 つを掲げています。

### ① 病床機能の分化・連携

- ・ 高度急性期から在宅等に至る一連の医療・介護をシームレスに提供
- ・ 病院完結型から地域完結型医療に転換するため ICT を積極的に活用

### ② 在宅医療等の充実

- ・ 療養病床に代わる新たな施設類型により、受け皿となる施設設備を推進
- ・ 地域包括ケアシステム等による認知症患者の見守り体制の構築

### ③ 医療従事者の確保・養成

- ・ 在宅医療を担う医師・歯科医師、看護職員の養成及び多職種協働の推進
- ・ 寄付講座、地域枠等を活用して地域偏在解消、県内定着を促進

“在宅医療等の充実” “認知症患者の見守り” “在宅医療を担う医師、看護職員の養成” など当クリニックに関連するキーワードが多く含まれています。病床数が減っていくなかで、いままで以上に病院との連携が必要となってきます。シームレス（切れ目なく）に医療・介護サービスを提供するためには、ケアマネジャーを始め、多職種との連携がますます重要となってきます。日頃から顔のみえる関係を構築していき、いざ連携が必要となったときに、スムーズに事柄をすすめていくためには、日頃からの準備が大切です。ICT をうまく利用した連携もさらにすすめていく必要があります。

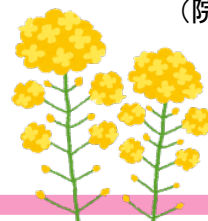
医療・介護等のことでお困りのことがありましたら、当クリニックまで何でもご相談ください。

(注) ICT：インターネットなど情報通信技術

(院長 笠松 哲司)



徳島新聞 2017 年 3 月 9 日記事より



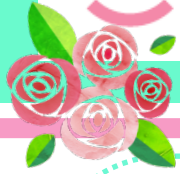
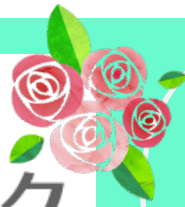
〒770-0932

徳島市仲之町 2 丁目 8 番地 2

TEL:088-679-6393

FAX:088-679-6394

HP: <http://www.kasamatsu-zaitaku.net>



4月になりました。毎年、年に1回の恒例行事?になってきた感もありますが、今年も懲りずに3月26日のとくしまマラソンに出走しました。段々と練習時間の確保も難しくなってきたので、今回は前日の夜までドタキャンを真剣に考えていましたが、たくさんの方から「毎年、新聞で名前を探していますよ!」とお声かけいただいたことが励みになって、無事に完走することができました。

4回目のフルマラソンになりますが、応援していただけることの有難さや、協力してくれる家族への感謝や、自分に負けない強いメンタルを持ち続けることなど、いろいろなことを考えながら走った42.195kmになりました。おかげさまで、公式タイムは自己ベストを1分更新しました。来年のことはまだ考えられませんが、そのうちまたどこかを走っているかもしれませんね。



さて、最近の小児科部門は、新しい在宅患者さんの受け入れや、従来の患者さんのライフスタイルの変化などもあり、少し慌ただしくなってきました。私の担当する患者さんは、在宅において高度な医療的ケアを必要とするお子さんです。

先日、病院主治医の先生が訪問診療に同行して下さいました。自分の患者さんが果たしてご自宅でどのように過ごされているのか。お子さんもお母さんも、病院とは違ってとてもリラックスしているのが印象的だったと話されていました。先生が患者さんを抱っこしてしばらく一緒に遊んでいましたが、2人とも楽しそうにニコニコ笑っているのを見て、私もとても嬉しくなりました。先生は「もしも病院に入院したままだったら、もしくは施設に入所していたら、今みたいな笑顔は見られなかったかもしれませんね。」と話していました。

大変なことも多い在宅療養ですが、お家では笑顔も生まれます。今月は学生実習も始まりますが、小児の在宅医療の現場をもっといろいろな人に知ってもらえたらと思っています。

(小児科 笠松 由華)

